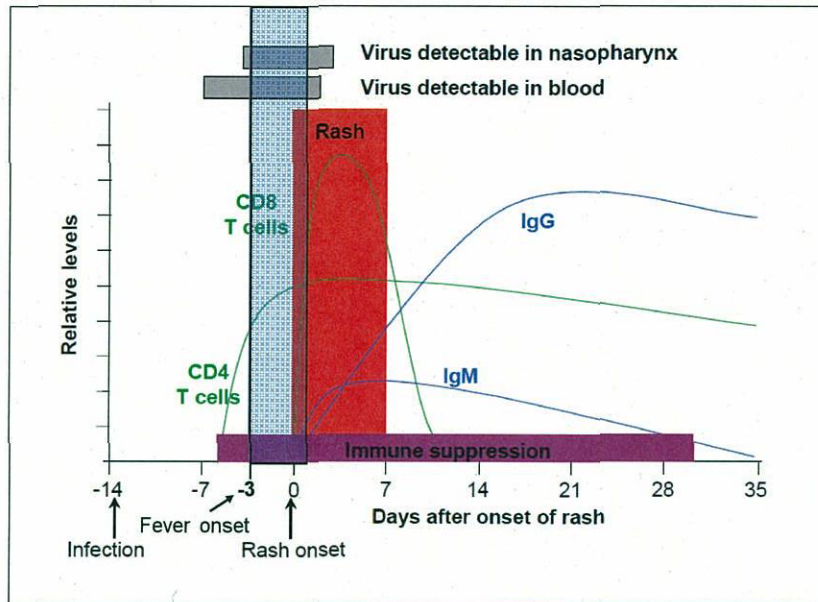


Figure 3. Immune responses in acute measles infection (after [7])



IgM ELISA法による診断の問題点

- 発熱～発疹出現直後では麻しんIgM抗体が十分に上昇していない事がある
- パルボVB19,HHV6等の発疹性疾患の原因ウイルス感染者の検体でも陽性(判定保留)となることがある
- IgM 測定用検体である血清はウイルスの遺伝子型を同定するための検体としては不適當
- 結果がでるまでに時間がかかることがある

地方衛生研究所による麻疹検査体制

正確性、迅速性、ウイルスのトレース(ゲノム解析)

- RT-PCR 法又は遺伝子定量法 (real time PCR法) による診断

NCLによる精度管理

- 共通の診断方法 (病原体検出マニュアル)
- レファレンスRNA の配布
- 麻疹・風しんレファレンスセンターの設置 (全国10カ所)

IgM ELISAの実施

- 麻疹・風しんレファレンスセンターで実施

Laboratory Network

